

令和6年度 和光市みなみ保育園における
自己評価(園の評価)

5, とてもよい 4, まあまあできている
3, ふつう 2, あまりできていない 1, まったくできていない

項目	内 容	評価	根拠・改善方法
人権尊重	①子供の人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てる保育をしているか。 ②子どもの名前を呼び捨てにしないか。 ③子どもの身体に乱暴に触れないか。 ④否定的な言葉や、脅すような言葉を使っていないか。 ⑤保護者の国籍・思想・宗教により、また、子どもの性差・障害・個性差によって区別、差別していないか。	4.3	・保育倫理に関しての重要な項目が職員間に浸透してきている。また、昨今課題とされている「不適切保育」に大きくかかわる項目であることで意識高く保たれている。
責説任明	理念や基本方針、保育内容を利用者に周知しているか。	3.4	・入園時には、入園のしおりや重要事項説明書を用い説明し、その後はコドモン(ICT)の資料室でいつでも閲覧できる状態にし、クラスの懇談会等でも定期的に周知している。
情報保護	利用者の個人情報を適切に取り扱っているか。	4.2	・子どもの個人情報等は必要な情報のみ職員に周知し、文書についてはファイリング等で管理している。
処理情	①保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、迅速に対応しているか。 ②園の苦情解決システムについて理解しているか。	3.5	・苦情用窓口や苦情用専用メールアドレスを設置している。苦情や悩みを聞いた時は、担当職員間で速やかに協議し、保護者と面談等の対応をし解決するよう取り組んでいる。
食育	①食育を通して、子どもたちが食事を楽しむことができる工夫をしているか。 ②子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携しているか。 ③食物アレルギーの他、文化、習慣の違い等、個別に配慮した食事を提供し職員同士の確認ができるか。 ④食や食材に興味が持てるよう、年齢に応じた働きかけができるか。	3.8	・食育年間計画を作成し、クッキングや栽培等を行っている。 ・給食サンプルの展示で実物を見てもらい、保育参加では試食を行い、味付け等も保護者に味わってもらうようにしている。 ・食物アレルギー児や、外国籍児が多数在籍しているが、確認作業を怠らず、意識を高く持ち保育を行っている。
衛生支援	①保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施しているか。 ②内科健診、歯科検診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させているか。 ③感染症発生時のマニュアルに沿って対応しているか。 ④感染症の発生状況を保護者に周知しているか。 ⑤午睡中に呼吸・姿勢・顔色の確認を行っているか。	3.9	・流行時はコドモン(ICT)にて速やかに周知している。 ・コドモンを活用し検診の結果等を通知し保護者と情報を共有している。
環境・安全管理	①事故防止のチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っているか。 ②施設内外、設備の安全点検を定期的に行っているか。	3.7	・事故防止については、軽微なものに関してはヒヤリハット報告書に記入して職員間で情報共有をし、重大事故につながらないようにしている。 ・月毎の危険箇所の点検・年1回の遊具点検を行い、修繕が必要な場合は速やかに対応している。
災害への備え	①園内にある備蓄品の把握ができるか。 ②避難訓練(火災、地震、不審者等)は役割や状況に応じた実践的な対応ができるか。 ③みなみ保育園業務継続計画について理解しているか。	3.4	・定期的(年2回)に備品の点検を行っている。 ・みなみ保育園業務継続計画に関しては職員・保護者への周知に努めた結果、平均値は高くなった。引き続き周知に努めていく。
地域育成とての支援携	①一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、信頼関係を作っていくよう努力しているか。 ②家庭の状況や、保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されているか。 ③子どもの発達や育児等について、懇談会等の話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けているか。 ④地域との関係が適切に確保されているか。(運営委員会、子育て支援センター、遊ぼう会等)	3.7	・コドモンの連絡ノート機能や、送迎時に日常の様子等の情報交換を行っている。 ・懇談会や定期定な面談に加え、必要に応じて個別に面談を行っている。 ・遊ぼう会や見学等を通して、園児以外の子育て家庭の悩み相談等にも対応している。
ケア地域システム	①虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が園長まで届くようになっているか。 ②虐待を受けていると疑われる子どもの保護者の対応について児童相談所・地域包括ケア課等の関係機関に照合、通告を行う体制が整っているか。	3.9	・発見時の通告の体制は整っている。 ・子ども家庭支援課との連携を密に取り、最善の注意を払うよう努めている。

項目	内 容	評価	根拠・改善方法
2歳児から学校3歳児連携の・移行	①小学校との間で交流する機会を設けており、職員間の話し合い、研修などが行われているか。 ②卒園した子どもの情報を得るように努めているか。 ③2歳児から3歳児の進級時は、特に大きく環境が変わる為、十分配慮し子どもや保護者の気持ちに寄り添っているか。 ④転園児に対して、各施設からの情報を共有・重要事項は園内で共有しているか。	3.3	・幼保小連絡協議会や事業者との報告会を通じて連携体制を密にしている。 ・小学校との連携の項目は該当する職員が少ないためか平均は低い傾向にあるが今後意識を高めるためどうしたらよいか考えていく。 ・小規模等他園からの転園児は入園前に前事業所職員と引継ぎ(書面又は面談)を行うとともに、5月頃に保護者と個人面談を行い、園児・保護者の負担軽減を工夫している。
多様な児童への配慮	①環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られるか。 ②環境や保育内容、スケジュールに必要な調整がされ、障害を持つ子どもが他の子どもと一緒に多くの活動に参加しているか。 ③障害のある子どもの保護者と情報交換し、目標を設定したり保育内容についてのフィードバックを行ったりしているか。 ④個別に支援計画を立てる、園内ケア会議を開く等、適切な配慮と支援を行っているか。	3.7	・個別の支援計画を作成し、ケアマネージャーや療育施設、保護者を交えての担当者会議を行い、目標を設定している。 ・園内でのケア会議を通して、職員間での情報共有を行っている。
資質職員の上	①日常的に保育の振り返りや、記録の共通認識ができているか。 ②研修を通して、資質向上の取り組みを行っているか。 ③保育にたずさわる者として、専門知識や技能を身につけているか。 ④自ら子どもや教育・保育に関する情報を日頃から得ようとしているか。 ⑤社会情勢や季節の変化などを感じ取る感受性を大切にしているか。	3.7	・市内全体研修や、埼玉県等主催の研修へ参加をし、保育士としての研鑽を積んでいる。

項目	内 容	評価	根拠・改善方法
保育内容	<p>【基本的生活習慣の確立】</p> <p>①食前食後の衛生面での準備ができるか。(手洗い、テーブルの清掃など) ②子どもが自分でしていることを見守り、必要に応じて支援しているか。 ③子どもが食前食後の挨拶ができるように働きかけているか。 ④子どものペースに合わせ、和やかな雰囲気の中で食事ができるようしているか。 ⑤嫌いな食べ物も本人が食べようという気持ちになるよう、丁寧に働きかけているか。 ⑥スプーンやお箸の持ち方、姿勢が保てるよう、必要に応じて支援しているか。 ⑦排泄の後始末・手洗いなど自分でしていることを見守り、必要に応じて丁寧に支援しているか。 ⑧身のまわりの片づけや着替えが自分でできるように働きかけているか。 ⑨睡眠は個々の状況に応じ、落ち着いて休息できるよう配慮しているか。 ⑩ある程度の休息は取れるよう促し、眠くない子どもは無理に寝かしつけていないか。</p> <p>【保健衛生・安全】</p> <p>安全について年齢にあった知識が身につくようにわかりやすい言葉で伝えているか。</p> <p>【基本的な子どもとの関わり】</p> <p>①言葉かけは肯定的で子どもの思いに寄り添ったものであるか。 ②子どもの目線に合わせて話をし、大声を出すなど遠くから呼んでいないか。 ③子どもの言葉や思いを聞き、受け止めているか。 ④注意深く子どもを見ており、一人と関わっている時も全体に注意を向いているか。 ⑤必要に応じて子どもを助けたり励ましたりしているか。</p> <p>【内容】</p> <p>⑥保育士として社会的に良いやりとりの見本になっているか。 ⑦子ども全員に仲間同士の肯定的なやり取りが生まれるように配慮しているか。 ⑧一日を通して温かな声掛けや雰囲気で接しているか。 ⑨必ず声をかけてから子どもに関わっているか。 ⑩いつも子どもの感情や反応を敏感に感じ取り、その時のニーズに応じたやりとりをしているか。 ⑪子ども同士の問題を解決するのに、話し合いができるように援助しているか。</p> <p>【遊び】</p> <p>①子どもが自発的に遊べるような空間や時間が保障されているか。 ②年齢、発達に合わせた遊具を用意しているか。 ③おもちゃは決まった場所に整理され、発達に応じて入れ替えられているか。 ④手や指を使って遊ぶのに適切なおもちゃが量・種類とも適量あるか。 ⑤遊びのコーナー分け(積み木・ままごと・絵本・机上)ができていて、物が系統的に収納されているか。 ⑥遊んだ後、元の場所へ片付けるよう促しているか。 ⑦生活の中で比べる、数えるなど形や数に親しむ活動があるか。 ⑧日常的に自然や生きた動植物に接する機会があるか。 ⑨子どもの使える楽器があり、楽しんで取り組めるようにしているか。 ⑩歌やふれあい遊び、わらべ歌などで子どもと遊んでいるか。 ⑪年齢、興味、関心にあった絵本を用意しているか。 ⑫子どもの描画・制作活動にふさわしい材料を用意しているか。 ⑬教材を用いて個性的な表現ができるようにしているか。 ⑭棚やおもちゃは衛生的で、修繕が必要な場所は報告し、簡易的な物は自分で直す、危険を回避する応急処置等しているか。 ⑮一人で落ち着いて遊べる空間、少人数でこじんまり遊べる空間があるか。 ⑯子どもが自ら遊びたいと思えるような働きかけをしているか。 ⑰子どもの作品が飾られているか。 ⑱体を使って遊ぶ遊具や設備を活用しているか。 ⑲戸外で子どもが快適に過ごせる環境を整えているか。 ⑳遊具はある程度の数がそろっており、整理整頓されているか。 ㉑一人ひとりの子どもの遊びを保障し、他児への関心を促しているか。</p>	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感が持てるような言葉かけや働きかけを意識しながら保育を行っている。 ・自主性や主体性を尊重することを意識し、個々のペースに合わせ、ゆとりを持った関わりを心掛けている。 ・発達や家庭状況に合わせ保護者に寄り添いながら子どもの育ちを共に喜べる環境作りを行っている。 ・行事に関しての考え方を職員間で共有している。 ・日々の保育からの連続性を大切にした取り組みを意識し行事を行っている。 ・各保育室に遊びのコーナー分け(積み木・ままごと・絵本・机上)を設定し、発達に合わせた環境設定を行っている。